



◀森家・川打家住宅で見つけた発見や感想をまとめる児童

Tuesday

2/9

多久を知る・学ぶ・発見する！

ふるさとについて学ぶ地域学習

2月9日、地域学習の一環として、くど造り民家「森家・川打家住宅」にて小中一貫校 東原庫舎中央校小学部3年生92人が校外学習を行いました。「森家・川打家住宅」について生涯学習課文化スポーツ係主査の福島健さんによる解説を聞きながら、くど造りの構造や潜り戸・無双窓について学び、地域の伝統に触れる機会となりました。参加した児童は「森家と川打家の違いがわかったり、いつできたのかがわかった」「井戸があってすごかった」と感想を話してくれました。

▲森家・川打家住宅についてわかりやすく説明する福島さん

おもいやりを考える

男女共同参画フォーラム

Sunday

2/14

「高齢化社会をむかえての男と女のおもいやり」と題して、南多久公民館で2月14日(日)に多久市男女共同参画フォーラム（多久市男女共同参画ネットワーク・多久市主催）を開催されました。多久市包括支援センターからの多久市の高齢者・認知症の人の現状について報告。きんりゅうケアセンター桂寿苑の下岡睦さんによる「家庭で地域で考える男女共同参画講座」と、桂寿苑一座の介護劇「母からの手紙」がありました。講談では、認知症の正しい知識やつきあい方が話されました。

参加者からは、「思わず頷く内容に笑った」「現在同居の介護者の3分の1が男性で、今後ますます多くなるという話に驚きました。」や「男やけん、女やけん、という問題じゃないですね」と大好評でした。

▶桂寿苑一座の介護劇



▶1日目、1区スタートを走った出雲一真選手がトップで、2区家永雄一選手ヘタスキを繋ぐ



◀「失敗してかなりチームに迷惑をかけたのでちょっとでも貢献できる走り」と懸命に走る多久市チームキャプテンの塚原大和選手

昨年同位健闘の12位、来年に期待！

第56回 都市対抗県内一周駅伝大会

第56回都市対抗県内一周駅伝大会（佐賀新聞社・佐賀陸上競技協会主催）が2月19日(金)から21日(日)にかけて開催され、県内市町13チームが270.1km、33区間のコースに挑みました。結果は、杵島郡を逆転した小城市が4連覇。多久市チームは、初日スタート1区を社会人として今年から本格参戦した出雲一真選手が堂々トップで走りぬぎ、区間賞を獲得！また、小川朋子コーチが指導する中学生・女子区間では、ほとんどが一桁順位で走りぬぎ今後に期待が持てる好走を見せてくれました。

累計タイムは15時間40分03秒と昨年よりタイムを縮めながらも、昨年と同位という結果に。岸川隆監督は「今回は選手たちの体調の良悪などで波がある中でも、チームワークでカバーできた部分は多かった。今後も継続して選手の底上げや人員確保に力を入れていきたい」と大会を振り返りました。



▲3日目、多久市内の中継所では、多くの市民が応援にかけつけました

▶3日目アンカーの大森常止選手



▶30回目の出場となる諸田雄一郎選手。息子・雄生選手も21区で活躍しました



▶ラストイヤーの懸命な走り3日目26区椎葉義仁選手

